

大学名	チーム名(プロジェクト名)
佛教大学	佛教大学グローバル人材PBL京丹後豊栄クラス魅力発信班

参加学生 (登壇者★)	★千原拓歩(社会学部)3回生 ★千葉嶺汰(社会学部)3回生 ★中江虹太(社会学部)3回生 ★山本佳祐(社会学部)3回生	連携先からの ミッション	情報発信・PR(イベント、観光)によるにぎわいの創出
活動期間	2021. 4. 21 ~2022. 2. 13	受け入れ先 団体・企業名	豊栄まちづくり委員会

ミッションへ取り組み概要(自由記述, 図表・画像挿入可)

私たちは、豊栄まちづくり委員会から与えられた「情報発信・PR(イベント、観光)によるにぎわいの創出」という目標に向け、複数回の現地の方とのミーティングや現地訪問を行い、そこで得られた知見を活かし提案を行った。

豊栄地区は、京都府京丹後市丹後町にあり、8つの区で構成されている。農業が盛んで、北西部には関西百名山の一つである依遅ヶ尾山がそびえる自然豊かな地域である。人口は、約800人で少子高齢化、人口減少の進行といった問題を抱えている。

前年度からの課題として、①魅力を発信する媒体がない、②発信内容の軸つまり、豊栄地区の中で何を魅力とするかが決まっていないという二つの課題があった。これらの課題を受け、まず若者や他地域などに向けた情報発信媒体としてSNSの開設を行った。豊栄で行われる一大イベントとして花火大会があるが、これの広告や発信のために花火大会に先立ち開設し運営を行っていった。また、これ以降にも同クラス内の花いっぱいプロジェクトが発信媒体としてホームページを製作した。これも一つの情報発信媒体として使用する。これらの情報発信媒体の開設によって、①の課題は解決ができたと考える。

二つ目の課題は「何を魅力とするか」だが、複数回のミーティングでお話を現地の方々からうかがっても特別にこれといったものが出てこないことが現状だった。そのため、実際に豊栄地区に訪れ、自分たちで豊栄の魅力を探した。この現地訪問で私たちが感じたことは、豊栄の町の人々の雰囲気の良いさだった。この「雰囲気の良いさ」を豊栄の魅力の一つとして新たに位置づけた。

この魅力を用いて「情報発信・PR(イベント、観光)によるにぎわいの創出」にむけた提案を行った。この目標にあるにぎわいとは豊栄地区の現状や現地の方々からの話を踏まえ、「地域に子供や子育て世代がおり、その地域で世代を超えて積極的に交流し、活動していること」と定義した。このにぎわいを魅力を用いて創出するには、豊栄地域の雰囲気の良いさで「移住先に選びやすい町」を目指す必要があると考える。そこで、私たちは①豊栄地区の雰囲気の良いさ(魅力)を発信、②イベントの企画・発信の二つを提案した。これらによって、イベントをきっかけに移住希望者に豊栄の魅力を感じてもらい、「移住先に選びやすい町」となり、最終的に目標である豊栄地区でのにぎわい創出が期待できると考える。

ミッションに取り組む中で社会的課題として見えてきたこと(ミッションと深く関わる社会的な課題)

少子高齢化、人口減少が進行していると前述したが、その背景には豊栄地区やその付近に働き口となる産業がないことがあった。移住の面から考えても、その地域での働き先が必須である。このため、地域内で産業を育成することは地域にとって重要になると考えている。くわえて、現地の方のお話からコロナ禍においては、地域内での交流が減少しており、様々なまちづくりの活動に支障をきたしていることが分かった。